



「作品展 授業公開」

去る十一月十七日、本校の体育館にて作品展・授業公開を開催しました。

作品展は、図画工作等の発表の場を設け、他学年の作品を鑑賞することにより、多彩な技能や表現を学び合う機会としていきます。各学年の平面作品や立体作品だけでなく、クラブ活動の作品、PTA文化部活動で制作した作品も展示しました。

一年生は「おむすびころりん」の穴の中のねずみたちやおじいさんの楽しい様子を、可愛らしく絵に表しました。二年生は「フランクリンの空とぶ本やさん」のドラゴンや女の子の様子をクレパスと絵の具を使って表現しました。三年生の「島ひきおに」は、寂しがり屋の鬼が人間と仲よく暮らすために一生懸命島を引く様子を、背景の色使いと鬼の動きを工夫して力強く絵に表しました。四年生の「サークルステンド」は、カラーポリシートや色セロハンを切ったり重ねたりして、素敵な作品に仕上げました。五年生は、野外学習で特に楽しかった心に残った体験を「思い出から広がる世界」として丁寧に絵に表しました。六年生の「十二年後のわたし」は、将来自分は何をしているのか、どんな仕事をしているのか想像し、紙粘土を使ってジオラマ風の

from 新栄小学校

空間に表し、夢と希望にあふれた作品を制作しました。三・四組の陶芸作品は、地域の陶芸クラブの方に教えていただきました。当日は陶芸クラブの方をお招きし、作品についての発表会を参観していただいた後、一緒に作品展を鑑賞し、交流を深めることができました。

授業公開では、たくさんの方々に子どもたちのがんばる姿を参観いただきました。午後からは親子鑑賞でした。家族で作品について語り合いながら鑑賞する微笑ましい姿が見られました。



私の航空史

岡野允俊

神様

多くの日本人は正月に初詣をする。名古屋では熱田神宮が参拝客で賑わう。僕は子どもの頃から近くの氏神さまはもちろん、一里ほどの道を歩いて熱田神宮へ参拝に行つた。兵隊さんの武運長久祈願であつた。平和な昨今では家内安全など身近な祈願になつた。仏教では弘法大使、親鸞聖人、日蓮上人といった具体的な教祖があつて分かりやすいが、神道には祭神が勾玉であつたり、剣や鏡であつたりでいまいちピンとこない。

そもそも神様は形がないので、ついでないがしろにする。したがってこれを擬人化すれば分かりやすく大切にす。神様は普段は高天原にいらつしやる。地上に降りてくるときの迎え、つまりお祭りでお呼びする。そこで神様は皆つつがなく暮らしているか、お見回りになる。これが神輿巡業。ときに御休みになるのは御旅宿。神輿を置き、担いでいる大人たちが一服して酒を飲む空地である。この神様は五穀豊穡を祈り、厄病を払い、大地を鎮め

る。そもそもお参りの時、鈴を鳴らすのは高天原の神様に参詣に来た旨を伝える合図であり、賽銭をあげて願い事を頼む。日本には八百万の神様がおり、あらゆるものに神様が宿っている。身近なところに神明社、八幡社等の鎮守さまから始まり大きな岩、清らかな泉、大木、古木、滝をはじめトイシにまでおわします。これらは環境保護、火の用心、衛生維持といったところか。

我が家の前に梵天社という小さな神社がある。小木地区にある社の分祀だそうだが社名の割には扱いが軽い。これでも正月にはお参りに来る人が結構いる。

あるとき、村の神社係の人たちが不安そうに探しものをしていたので確かめると「ご神体が無い」という。ご神体は八十センチほどの板に・・・の命と墨書したものであるという。後日判明したが近所の子どもたちが野球のバットの代わりにして遊んでいたと判明。あわてて作りなおしおさめたとか。要はできるだけ希少なものをご神体とし、これを崇め奉り、拜む人の心のよりどころになればよいのだ。神様は本当は自分の胸の中にあるのだが、皆のよりどころとして神社があるのであろう。